

古墳用語解説



蓋石 墳丘斜面を覆った石で、古墳を飾るとともに盛土の流出を防ぎます。



墳丘 周囲を削ったり、盛り土をして造った高まりです。

埴輪 墳丘の上や周囲に飾りや祭祀のために配置されました。筒状の円筒埴輪、様々なものをかたどった形象埴輪などがあります。

周溝 墳丘の周囲にめぐらし、古墳と周囲を区画する溝です。

外堤 周溝の外側にめぐる土手で、ランクの高い古墳にみられます。



竪穴式石室(石棚) 前期の代表的な埋葬施設で、内部に木棺を安置しました。出入口は無く、1度の埋葬しか行われませんでした。



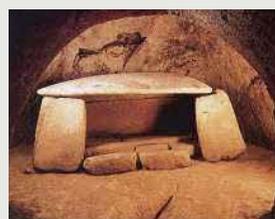
横穴式石室 後期に普及した。墳丘の側面から入る構造の石室。埋葬後は入り口を石で閉めますが、閉塞石は必ずしも度々も埋葬することができます。



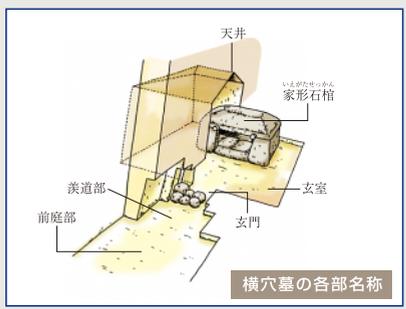
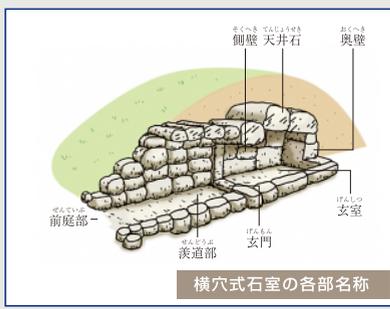
箱式石棺(はこしきせっかん) 弥生時代から見られる石棺で、箱形に板石を組み合わせたひつぎです。



舟形石棺(ふながたせっかん) 古墳時代中期に流行したひつぎで、石を割り抜いて造られました。縄を掛ける突起があります。



家形石棺(いえがたせっかん) 古墳時代後期に多く見られ、割り抜き式と組み合わせ式があります。



横穴墓 横穴式石室を横して、山の斜面に掘られた墓。一般的に石室を持つ古墳よりランクの低い墓です。

年表

西暦	時代区分	おもな出来事
100年	弥生時代 後期	倭国乱れる(魏志倭人伝)
200年	弥生時代 終末期	女王・卑弥呼が魏に使者を送る(238年)
300年	古墳時代 前期	奈良盆地で前方後円墳が造られる 大和政権の統一が進み、各地に前方後円墳が造られる
400年	古墳時代 中期	大仙古墳(伝仁徳陵)が造られる 須恵器の生産が始まる
500年	古墳時代 後期	筑紫国造磐井の反乱(527年) 仏教が伝来する
600年	飛鳥時代 終末期	聖徳太子が活躍する 大化の改新(645年)
710年	奈良時代	奈良に都が移る

図・写真を引用した文献

近藤 義郎 編 1990『前方後円墳集成』中国・四国編 山川出版社
 出雲考古学会編 1987『石棺式石室の研究』『古代の出雲を考える6』
 出雲考古学会編 1991『松本古墳群』『古代の出雲を考える7』
 島根県古代文化センター編 1996『いにしへの島根 ガイドブック』
 第34回山陰考古学研究会事務局編 2006『古代の隠岐』
 神原 博英 2004『周布古墳の墳丘調査』『島根考古学会誌』第20・21集合併号
 野田 久男・清水 真一 1983『日本の古代遺跡9 鳥取』保育社
 鳥取県埋蔵文化財センター編 1986『鳥取県の古墳』
 新編倉吉市史編集委員会 1996『新編倉吉市史』第1巻古代編
 角田 徳幸 1985『法勝寺川流域および日野川下流域における横穴式石室とその系譜』
 『島根考古学会誌』第2集
 近藤 哲雄 1987『東伯耆における横穴式石室の様相』『島根考古学会誌』第4集
 中原 斉・角田 徳幸 1990『鳥取県・長者ヶ平古墳の研究』『島根考古学会誌』第7集

※ このほか、各古墳については発掘調査報告書等を参考にしました。

資料提供・協力機関

- 島根県
海士町教育委員会、飯南町教育委員会、出雲市、雲南市教育委員会、大田市教育委員会、邑南町教育委員会、隠岐の島町教育委員会、奥出雲町教育委員会、江津市教育委員会、知夫村教育委員会、西ノ島町教育委員会、浜田市教育委員会、斐川町教育委員会、益田市教育委員会、松江市、安来市教育委員会、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 鳥取県
岩美町教育委員会、倉吉市教育委員会、倉吉博物館、江府町教育委員会、琴浦町教育委員会、山陰考古学研究所、大山町教育委員会、智頭町教育委員会、鳥取市教育委員会、南部町教育委員会、伯耆町教育委員会、湯梨浜町教育委員会、米子市教育委員会、鳥取県立博物館、鳥取県埋蔵文化財センター